

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2394800011		
法人名	株式会社 ヒビキ		
事業所名	グループホームひびきの家豊明		
所在地	豊明市沓掛町東門22-1		
自己評価作成日	平成26年11月18日	評価結果市町村受理日	平成27年 5月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=2394800011-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成26年11月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの憩いの場所より、公園の緑を眺め、春には桜を楽しみ、すぐ隣の乗馬クラブの馬を見ることができ、のどかな環境の中で、のんびりとその人らしい生活を送って頂いています。平成24年4月より2ユニットとなりました。増設ユニットではリフト浴を設置し、より安全で快適な入浴サービスの提供が可能となりました。大家族になりましたが、一人1人の状態に合わせたきめ細かい介護を行いたいと考えています。昨年度に引き続き、常勤の薬剤師による内服管理体制・柔道整復師の監修のもと、より質の高い機能訓練を提供してゆきます。スタッフも家族様の愛情に負けない気持ちで支援させて頂きます。直ぐとなり食事の店もできて賑やかになりました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

目の前に大きな公園があり、近くの乗馬クラブの練習がホームの窓から眺められる。そのような恵まれた自然環境の中、利用者はゆったり落ち着いた雰囲気の中で暮らしている。その雰囲気の中で、春は桜、夏には蝉・蛙の鳴き声、秋には紅葉に鈴虫の鳴き声、アオダイショウから卵を守ってのスズメの巣立ち等、四季の変化が五感に感じられるホームである。
町内行事(盆踊り等)に参加し、ホームを会場として研修会(認知症サポーター養成講座・高齢者の転倒等)を開催し、地域住民を招いて地域貢献を目指した活動にも取り組んでいる。
昨年・今年と継続しているホームの理念『笑顔で挨拶』が職員に周知され、家族アンケートにも『笑顔で親切』、『頑固者にいやな顔もせず対応』等、賞賛の言葉が多く寄せられた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	平成26年度は引き続き【笑顔で挨拶】をホームの理念として管理者・職員はその理念を共有して実践に繋げている。	『笑顔で挨拶』からすべてが繋がっていくので、昨年に引き続き、『笑顔で挨拶』をホームの理念としている。理念の周知が不徹底の時は、管理者がロッカーに貼り紙をして職員に気づかせている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に参加し、町内の行事や夏祭り等に参加している。町内子供会による獅子舞などがホームにまわってくれるようになった。ホームにおいても地域の方と交流ができるように「交流会」を実施できた。	お祭りの神輿がホームに立ち寄り、利用者が『おひねり』を出したり、散歩の途中に地域の方から挨拶や花をいただいている。『認知症サポーター養成講座』、『交流会』等、地域貢献を目指した活動にも取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方との交流を通じて、利用者様の暮らしなどを知って頂き、理解を得るようになってきたと思う。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様の日々の生活やケアについて、又、ホームの行事、事故報告などを行い、家族様はじめ出席者の方からいろいろな意見を頂き、施設運営に生かしている。	市役所・町内会長・民生委員・家族・利用者・法人・ホームのメンバー構成で、運営推進会議を年6回開いている。ホームの現状を伝え、町内会長から『何かあったら手伝う』との温かい言葉も頂いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所へ赴くようにしている。市の担当者から、介護福祉事業などの情報提供をして頂いている。その情報は回覧板で全職員へ周知している。	市役所担当者の運営推進会議への出席、介護相談員の受け入れにより、ホームの状況は行政に良く理解されている。管理者は市役所に状況報告に良く出向いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者、職員全体が身体拘束をしないケアを学び、また、具体的な行為について正しく理解してケアに取り組んでいる。	管理者・職員共に身体拘束による弊害を理解し、拘束をしないケアを実践している。玄関は常時開錠し、職員の手薄な時間帯や不穏利用者のいる時に限り、施錠する事もある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	2か月に1回、勉強会を行い、虐待防止等について話し合う機会を設けている。日常のケアにおいて虐待防止等の情報をもとに話し合いの場を設けて虐待防止の徹底に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	行政施設等の担当者とお話する機会があり、制度等への理解が深まった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居申し込み・本人面接・契約の段階に応じて話を伺い、説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族来設時に利用者様の生活等について近況報告を行い、意見要望をいただいている。	家族は良く来訪している。来訪時に利用者の近況報告を行い、意見・要望を聞いている。家族の要望『ホワイトボードにその日の勤務者の名前を掲示』、『外出時の写真を掲示する』等を具体化している。	家族アンケートで厳しい評価を受けた6項と7項は、「わからない」の回答が多い。発信文書の『〇〇様のご家族様へ』の内容を工夫し、家族の理解を深める事を期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は職員から意見や提案が出来るよう心掛けている。申し送り帳等を用いて意見・提案・要望等を問いかけたり聞いたりしている。全体会議を2ヶ月に1度とし、職員の意見や提案を聞く機会も増やした。	3ヶ月に一度の全体会議を2ヶ月に一度にとし、職員の意見・提案を聞く機会を増やした。職員ヒアリングでは、『シフトが厳しい』、『業務改善の提案』等、意見・要望を言えば何とかしてくれるとの声もあった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は頻りに現場に来ており、個別職員の業務状況などを把握している。また、職員が働きやすいように職場条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に情報を収集し、職員の段階に応じて受講できるよう計画を立て実施している。また他の講習会等も回覧し、希望者を募っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的な交流の計画はないが研修等の参加により交流する機会をつくり、サービスの質の向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面接で本人様からの情報収集は大切にしており、そこで得た情報は全職員が共有し、入居時の不安やストレスを少しでも軽減させるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が求めているものを理解し、事業所としてはどのような対応ができるか事前に話し合いをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	特別な対応が必要な方には可能な限り柔軟な対応を行っている。こちらからの提案と利用者・ご家族の要望を考慮して意思疎通を行いながら介護にあたっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側、される側という意識は持たず、お互いが協力し合い、和やかな生活ができるよう場面作り、声掛けをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に一緒に本人様を支えていくことを大切にしている。家族様の協力によって成り立つものと考えているため、日頃からコミュニケーションを図るよう声掛け、ホームのこのような姿勢や考えを伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様や友人知人の来設時はホーム全体で歓迎し、楽しい時間を過ごしていただけるよう心掛けている。	会社の元部下、宗教関係者等の来訪時には、馴染みの関係が途切れない様に配慮・支援している。『詩吟・尺八の教室にもう一度行きたい』の声があり、知り合いに連絡したら教室の仲間が来てくれた事例もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係について、情報連帯し、全職員が共有できるようにしている。又、心身状態や気分・感情で日々変化することもあるので注意深く見守るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用契約の終了状態によって、これまでの関係性を大切にしよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活や会話の中から本人様の思いや希望等を感じ取り見つけだし把握するようにしている。利用者様から自発的な表出が難しい場合には職員側からアプローチするなど、一人一人に合わせて対応している。	寄り添う支援の食事・散歩・入浴等の際に呟いた本人の声をメモに残し、思いを叶えている。『詩吟・尺八の教室にもう一度行きたい』との思いを聞き、知り合いに連絡して教室の仲間を呼び寄せた事例がある。	利用者の輝いていた時代を思い出させるインパクト(当時のアルバム・新聞・雑誌・ポスター・スターの写真等)を積極的に見せ、『思い』を引き出す誘い水になる事を期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面接での情報収集、家族様に作成して頂く情報提供書を基に把握している。また利用者様本人との会話から得る事もある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の様子を介護記録または介護詳細記録に記録し、全職員が把握し情報の共有ができるようになっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の生活の上で、全職員が気づきとして出し合う。本人様より得た希望や家族希望に沿った介護計画を作成する。最近ではご家族からの要望を頂ける機会が増えてきた。	気づきノートを基に、利用者の思いをまとめ、家族の要望も含め、計画作成担当者がプランを作成して全体会議で確認している。家族アンケートの『介護計画の説明』の設問には、全回答者が満足と答えている。	現状の介護記録の長所は残したうえで、介護計画と介護記録の繋がりを工夫し、日々の介護記録がモニタリングや介護計画の検討の際に、より活用される事を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に利用者一人一人の体調や出来事、声等を記録している。また各利用者様の介護記録の実施状況をみて介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様、家族様の状況に応じて通院等の必要な支援は柔軟に対応している。運営者(代表者)や薬剤師であるため内服薬管理はできている。また、看護師による健康管理が行われている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議において、民生委員の方、また、地域の方より地域に関する情報(行事等)をいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様や家族様が希望するかかりつけ医となっている。また通院や受診は本人様や家族様の希望に応じて対応している。基本的には家族対応をお願いしているが、不可能な場合は職員が代行している。	協力医をかかりつけ医にと強制する事はない。馴染みのかかりつけ医の選択は利用者や家族に任せている。かかりつけ医への通院は、家族対応ではあるが、都合つかない場合や緊急時はホームで対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置しており、利用者様の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。看護師がいない時は、介護職員の詳細記録等を基に確実な連携を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合には出来る限り面会へ行き、ご家族様との情報交換を行っている。それと同時に、医療機関との関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人様や家族様の意向を踏まえ、医師、職員が連携を取り安心して納得した最期が迎えられるように意思を確認しながら取り組んでいる。	医療行為が発生しない限り、ホームで看取りを行う考えである。その際、かかりつけ医が対応困難であれば、協力医に変更して行くとの課題もある。職員は吸痰や胃ろうに対応出来る様に資格も取得し、勉強会も行って看取りの体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変や事故発生に備えて、全職員に応急手当や初期対応の訓練を実施している。今後、勉強会の機会を増やし急変時の対応がしっかり行えるようにしたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回(4月・12月)消防署の協力で避難訓練・初期消火訓練を行っている。	年2回(4月昼間想定、12月夜間想定)消防立ち合いの下、避難訓練を行っている。12月の夜間想定訓練では、職員一人体制で全員避難に10分程時間を要した。現在、高齢者・認知症の災害避難所を申請中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人様の気持ちを大切に、さりげないケアを心がけたり、自己決定しやすい言葉がけをするよう努めている。	利用者を人生の先輩として、尊敬の意を忘れずに言葉遣いに気を付けている。話をする時は目線の高さを合わせ、寄り添って支援している。不適切な言葉かけは職員間で注意したり、会議で意見を出し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人にあわせ、本人様が答えやすく選びやすいよう働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、時間を区切った過ごし方はしていない。(食事と入浴時間は大まかな日課となっている)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容においては、2ヶ月に1回ホームに来てもらっている。衣服については基本的に本人の意向で決めてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者さまの食べたいものを毎回提供することは出来ないが、誕生日等の行事において希望を聞いたり、日常生活の会話の中で口にされる献立を取り入れたりしている。	メインの献立は肉・魚・丼物でローテーションを組み、副食は担当職員が利用者の声を取り入れて決めている。利用者個々の『力量』や『希望』に応じ、皮むき・下膳・食器洗い・食器拭き等に参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量(栄養摂取量)や水分摂取量を個人に合わせて確認できるようにしている。夜間も自由に水分補給ができるように居室に準備している。また水分摂取量を確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自分でできる方には声掛けし、できない方にはスタッフの介助で口腔ケアをしている。場合によってはケア後のチェックもしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿チェックを行い、尿意のない利用者様にも時間を見計らって声掛けすることによりトイレでの排泄ができるように支援している。	排泄チェック表を用い、利用者個々のリズムを把握してトイレ誘導している。タイミング良い声かけで、可能な限りトイレでの排泄を基本にしている。プライバシーにも配慮し、声かけ方法、タイミングにも気を配っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分・運動に気を付けて疾病予防に取り組んでいる。薬の関係等で便秘になりやすい方については医療機関と相談して対応している。便秘予防のための食品も献立に取り入れる様心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日と入浴時間は今のところホームの日課内で決められているが、安心して入浴して頂けるように安全面の配慮を行っている。又、車椅子の方にもゆっくりした入浴を楽しんで頂けるようリフト浴を設置した。	夏は週4回、冬は週3回入浴している。時には入浴剤を使い、世間話をしながらゆったり入浴出来る様に支援をしている。車椅子の利用者もゆっくり入浴を楽しめるよう、リフト浴も設置されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の種類、量、飲み方が変わった時は詳細に記録し、申し送りを行い、全職員が理解している。薬は服薬時、本人に手渡しきちんと服薬されているか、確認している。また、症状の変化の観察にも努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で一人一人の力を発揮していただけるよう、自分で行って頂けることはやって頂き、感謝の言葉を伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限り本人の希望に答えられるように支援を行っている。普段行けないような場所へは家族の協力をいただいている。	散歩で転倒や事故に遭わないように、職員が1対1で付き添っている。ホームではビール2本まで許されており、主治医の許可のある利用者はコンビニに買いに行っている。遠出としては、回想法の材料(昔の消防ポンプの展示等)を求めて出かけている。	家族アンケートでは厳しい評価を受けている項目である。家族の望む外出支援と家族の認識にズレが感じられる。利用者の日常(外出)をより理解しやすく伝える工夫を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小口現金として施設で預かっている。喫茶店利用時は利用店にお願いして個々で支払ができるよう支援している。場合によってはスタッフが支払の対応をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居時に、ご家族・利用者様の要望を伺い、それに沿って支援している。携帯で自由に連絡をとって見える方もいるがその場合もご家族様の都合をお伺いして電話できる環境を設定している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	キッチン・フロアはいつもオープンになっており、どこからでも季節の樹木がみられ、春には桜、夏には蝉の鳴き声や蛙の鳴き声、秋には鈴虫の鳴き声等も聞かれ、利用者様同士でも会話が弾んでいる。	天井が高く、廊下、リビング、中庭と、全てが広々としてゆったりしている。利用者は窓越しに四季の移ろいを感じ、春には桜、夏には蝉・蛙の鳴き声、秋には紅葉等を眺め、大きなソファにゆったり座って食後の休憩時間を過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	昔のことを思い出して頂けるよう、懐かしい本・雑誌コーナー(ミニ図書館)が設けてある。利用者さまが楽しくおしゃべりされる陽だまりの場所がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、新しく購入してもってきていただくのではなく、今まで使ってみえた馴染みのものを持ってきてくださることが安心して生活をしていただけることになるとお伝えし、居室の工夫をしている。	ご主人と一緒に見ていた思い出の大きなテレビがある居室、家族の届けた飛行機の本を積んである居室、余り品物を持ち込まないシンプルな居室と、個性に溢れる居室は利用者の生活歴そのものである。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の一人一人が分かる力を見極め、必要に応じて目印をつけたり、物の配置等に気を付けている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2394800011		
法人名	株式会社 ヒビキ		
事業所名	グループホームひびきの家豊明		
所在地	豊明市沓掛町東門22-1		
自己評価作成日	平成26年11月18日	評価結果市町村受理日	平成27年 5月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=2394800011-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市中区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成26年11月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの憩いの場所より、公園の緑を眺め、春には桜を楽しみ、すぐ隣の乗馬クラブの馬を見ることができ、のどかな環境の中で、のんびりとその人らしい生活を送って頂いています。平成24年4月より2ユニットとなりました。増設ユニットではリフト浴を設置し、より安全で快適な入浴サービスの提供が可能となりました。大家族になりましたが、一人1人の状態に合わせたきめ細かい介護を行いたいと考えています。昨年度に引き続き、常勤の薬剤師による内服管理体制・柔道整復師の監修のもと、より質の高い機能訓練を提供してゆきます。スタッフも家族様の愛情に負けない気持ちで支援させて頂きます。直ぐとに食事の店もできて賑やかになりました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	平成26年度は引き続き【笑顔で挨拶】をホームの理念として管理者・職員はその理念を共有して実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に参加し、町内の行事や夏祭り等に参加している。町内子供会による獅子舞などがホームにまわってくれるようになった。ホームにおいても地域の方と交流ができるように「交流会」を実施できた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方との交流を通じて、利用者様の暮らしなどを知って頂き、理解を得るようになってきたと思う。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様の日々の生活やケアについて、又、ホームの行事、事故報告などを行い、家族様はじめ出席者の方からいろいろな意見を頂き、施設運営に生かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所へ赴くようにしている。市の担当者から、介護福祉事業などの情報提供をして頂いている。その情報は回覧板で全職員へ周知している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者、職員全体が身体拘束をしないケアを学び、また、具体的な行為について正しく理解してケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	2か月に1回、勉強会を行い、虐待防止等について話し合う機会を設けている。日常のケアにおいて虐待防止等の情報をもとに話し合いの場を設けて虐待防止の徹底に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	行政施設等の担当者とお話する機会があり、制度等への理解が深まった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居申し込み・本人面接・契約の段階に応じて話を伺い、説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族来設時に利用者様の生活等について近況報告を行い、意見要望をいただいている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は職員から意見や提案が出来るよう心掛けている。申し送り帳等を用いて意見・提案・要望等を問いかけたり聞いたりしている。全体会議を2ヶ月に1度とし、職員の意見や提案を聞く機会も増やした。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は頻繁に現場に来ており、個別職員の業務状況などを把握している。また、職員が働きやすいように職場条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に情報を収集し、職員の段階に応じて受講できるよう計画を立て実施している。また他の講習会等も回覧し、希望者を募っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的な交流の計画はないが研修等の参加により交流する機会をつくり、サービスの質の向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面接で本人様からの情報収集は大切にしており、そこで得た情報は全職員が共有し、入居時の不安やストレスを少しでも軽減させるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が求めているものを理解し、事業所としてはどのような対応ができるか事前に話し合いをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	特別な対応が必要な方には可能な限り柔軟な対応を行っている。こちらからの提案と利用者・ご家族の要望を考慮して意思疎通を行いながら介護にあたっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側、される側という意識は持たず、お互いが協力し合い、和やかな生活ができるよう場面作り、声掛けをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に一緒に本人様を支えていくことを大切にしている。家族様の協力によって成り立つものと考えているため、日頃からコミュニケーションを図るよう声掛け、ホームのこのような姿勢や考えを伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様や友人知人の来設時はホーム全体で歓迎し、楽しい時間を過ごしていただけるよう心掛けている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係について、情報連帯し、全職員が共有できるようにしている。又、心身状態や気分・感情で日々変化することもあるので注意深く見守るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用契約の終了状態によって、これまでの関係性を大切にしよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活や会話の中から本人様の思いや希望等を感じ取り見つけだし把握するようにしている。利用者様から自発的な表出が難しい場合には職員側からアプローチするなど、一人一人に合わせて対応している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面接での情報収集、家族様に作成して頂く情報提供書を基に把握している。また利用者様本人との会話から得る事もある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の様子を介護記録または介護詳細記録に記録し、全職員が把握し情報の共有ができるようになっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の生活の上で、全職員が気づきとして出し合う。本人様より得た希望や家族希望に沿った介護計画を作成する。最近ではご家族からの要望を頂ける機会が増えてきた。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に利用者一人一人の体調や出来事、声等を記録している。また各利用者様の介護記録の実施状況をみて介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様、家族様の状況に応じて通院等の必要な支援は柔軟に対応している。運営者(代表者)や薬剤師であるため内服薬管理はできている。また、看護師による健康管理が行われている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議において、民生委員の方、また、地域の方より地域に関する情報(行事等)をいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様や家族様が希望するかかりつけ医となっている。また通院や受診は本人様や家族様の希望に応じて対応している。基本的には家族対応をお願いしているが、不可能な場合は職員が代行している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置しており、利用者様の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。看護師がいない時は、介護職員の詳細記録等を基に確実な連携を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合には出来る限り面会へ行き、ご家族様との情報交換を行っている。それと同時に、医療機関との関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人様や家族様の意向を踏まえ、医師、職員が連携を取り安心して納得した最期が迎えられるように意思を確認しながら取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変や事故発生に備えて、全職員に応急手当や初期対応の訓練を実施している。今後、勉強会の機会を増やし急変時の対応がしっかり行えるようにしたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回(4月・12月)消防署の協力で避難訓練・初期消火訓練を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人様の気持ちを大切にし、さりげないケアを心がけたり、自己決定しやすい言葉がけをするよう努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人にあわせ、本人様が答えやすく選びやすいよう働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、時間を区切った過ごし方はしていない。(食事と入浴時間は大まかな日課となっている)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容においては、2ヶ月に1回ホームに来てもらっている。衣服については基本的に本人の意向で決めてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者さまの食べたいものを毎回提供することは出来ないが、誕生日等の行事において希望を聞いたり、日常生活の会話の中で口にされる献立を取り入れたりしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量(栄養摂取量)や水分摂取量を個人に合わせて確認できるようにしている。夜間も自由に水分補給ができるように居室に準備している。また水分摂取量を確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自分でできる方には声掛けし、できない方にはスタッフの介助で口腔ケアをしている。場合によってはケア後のチェックもしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿チェックを行い、尿意のない利用者様にも時間を見計らって声掛けすることによりトイレでの排泄ができるように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分・運動に気を付けて疾病予防に取り組んでいる。薬の関係等で便秘になりやすい方については医療機関と相談して対応している。便秘予防のための食品も献立に取り入れる様心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日と入浴時間は今のところホームの日課内で決められているが、安心して入浴して頂けるように安全面の配慮を行っている。又、車椅子の方にもゆっくりした入浴を楽しんで頂けるようリフト浴を設置した。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の種類、量、飲み方が変わった時は詳細に記録し、申し送りを行い、全職員が理解している。薬は服薬時、本人に手渡しきちんと服薬されているか、確認している。また、症状の変化の観察にも努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で一人一人の力を発揮していただけるよう、自分で行って頂けることはやって頂き、感謝の言葉を伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限り本人の希望に答えられるように支援を行っている。普段行けないような場所へは家族の協力をいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小口現金として施設で預かっている。喫茶店利用時は利用店にお願いして個々で支払ができるよう支援している。場合によってはスタッフが支払の対応をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居時に、ご家族・利用者様の要望を伺い、それに沿って支援している。携帯で自由に連絡をとって見える方もいるがその場合もご家族様の都合をお伺いして電話できる環境を設定している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	キッチン・フロアはいつもオープンになっており、どこからでも季節の樹木がみられ、春には桜、夏には蝉の鳴き声や蛙の鳴き声、秋には鈴虫の鳴き声等も聞かれ、利用者様同士でも会話が弾んでいる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	昔のことを思い出して頂けるよう、懐かしい本・雑誌コーナー(ミニ図書館)が設けてある。利用者さまが楽しくおしゃべりされる陽だまりの場所がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、新しく購入してもってきていただくのではなく、今まで使ってみえた馴染みのものを持ってきてくださることが安心して生活をしていただけることになるとお伝えし、居室の工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の一人一人が分かる力を見極め、必要に応じて目印をつけたり、物の配置等に気を付けている。		